

メソミル水和剤 ランネート45DF	取扱メーカー： クミカ、日農、北興、三井アグロ、 ホクサン、一農、琉産、丸和 原体メーカー： デュボン
成分： メソミル〔カーバメート系 PRTR・1種〕……………45.0%	性状： 青色水和性微粒及び細粒 毒性： 劇物 消防法： ——

【品目特性】……………

- 多くの害虫に対し速効性を示す。またハスモンヨトウやヨトウムシなどの老齢幼虫にも効果がある。
- 殺虫スペクトラムは広範囲にわたり、ハスモンヨトウやコカクモンハマキなどのチョウ目に効果を示すばかりでなく、アブラムシなどのカメムシ目及びアザミウマ、センチュウ類にも防除効果を示す。
- 防除効果は主に接触作用により急激に現われ、さらに食毒効果とあわせて処理後1～2日位で最大となる。残効性は短い。
- 土壌中での分解は速く、環境への影響は少ない。
- 人畜に対する経口毒性は比較的高いが、一過性である。経皮毒性は低い。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

〈茶〉

- 摘採直後から摘採21日前までのふ化後間もない若齢幼虫を防除するのが効果的。
- ハマキムシ、ホソガ、ウンカ、アザミウマ、カスミカメを同時防除できる。カイガラムシ、ハダニには効果が劣るので他の有効薬剤を使用する。

〈あぶらな科野菜〉

- 作物の葉裏にも十分付着するように散布する。
- 若～中齢幼虫を見つけてから散布しても、速やかに防除できる。コナガ発生時にはコナガ専用防除剤と混用して散布する。

〈いちご〉

- イチゴセンチュウ、イチゴメセンチュウの防除は仮植床の花芽分化前の時期に芽の部分によくかかるように1週間おきに3～4回散布する。イチゴネグサレセンチュウの防除は仮植床で苗の活着後に7～10日間隔でジョロをなどで1㎡当り1

～2ℓを2～3回灌注する。

〈ばれいしょ〉

- 収穫前の茎葉にいる害虫防除に重点をおいて使用する。

- ジャガイモガに対しては潜葉幼虫に使用する。

〈たまねぎ〉

- 開花期後、株当り生息密度が数十頭程度を目安として、発生初期の防除に重点をおく。

〈ほうれんそう〉

- ミナミキイロアザミウマの防除は、初発生をみたら直ちにかけ残しのないように丁寧に散布する。

〈ねぎ〉

- シロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若齢幼虫期に散布する。

〈はくさい〉

- 定植後20日以内では被害のおそれがあるので使用しない。又、定植後20日頃に使用する場合は、低濃度（2000倍）で使用する。

〈いちご〉

- イチゴネグサレセンチュウ防除の場合、苗の移植活着後（育苗期）に7～10日間隔で2～3回ジョロ等で灌注する。

〈ミナミキイロアザミウマの防除〉

- 生息密度が高まると効果が劣るので、初発生をみたら直ちに散布する。なお、ミナミキイロアザミウマは繁殖が早いので、散布はかけ残しのないようにいねいに行う。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液などアルカリ性薬剤との混用は効果が落ちるのでさける。

- 適用作物（はくさい）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

●医薬用外劇物。取扱いには十分注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。

●作業中に、粉末や噴霧を吸い込んだ場合は、薬剤にさらされない場所に移り、安静にする。薬液を多量に浴びたときには、衣服を脱ぎ、皮膚・眼をよく洗う。また、身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。

●中毒に対しては、硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されている。呼吸が困難な場合は気道を確保する。口移し人工呼吸は行わない。

●眼に刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。

●施設内での灌注処理は、出入口、天窓、側窓等を開け、適宜、通気を確保して作業を行う。

●灌注処理にはハス口状ノズルを使用すること。また、危害防止のためハス口状ノズルを腰より下にして地面に向けて灌注する。

●散布は、危害防止のため、胸の高さ以下の作物に対して下に向けて散布する。作物が胸の高さを超える場合は絶対に散布しない。特にたばこでは、草丈が腰の高さの時までに散布する。

●被覆中の茶園や施設内など、噴霧のこもりやすい場所での散布は行わない。

●高温多湿時の長時間作業及び疲労時の使用はさける。

●散布液の漂流飛散による危害を防止するため、特に水田転換作の大豆などに散布する場合は、フォームスプレー（泡散布）する。

●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。

●共通注意事項7. ミツバチに対する注意事項を参照。

●甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。



【適用と使用方法】

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	メソミルを含む 農薬の総使用回数	
かぼちゃ	ワタアブラムシ	1000 倍	100 ～ 300 ℓ	前日まで	3 回以内	散布	3 回以内	
いちご	イチゴメセンチュウ イチゴセンチュウ			1 ～ 2 ℓ /m ² 2 ～ 3 ℓ /m ²	育苗期 定植後生育 初期		4 回以内	4 回以内
	イチゴネグサレセンチュウ				移植活着後 (育苗期)			
	コガネムシ類幼虫	収穫開始 14日前まで	3 回以内			3 回以内		
ピーマン (露地栽培)	タバコガ ハスモンヨトウ			1000 ～ 2000 倍	100 ～ 300 ℓ		14日前まで	2 回以内
キャベツ	アオムシ コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ アブラムシ類 タマナギンウワバ	21日前まで	3 回以内			3 回以内		
はくさい	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類							14日前まで
だいこん	アオムシ コナガ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	7日前まで	2 回以内			2 回以内		
こまつな チンゲンサイ	アブラムシ類							21日前まで
かぶ	アオムシ アブラムシ類	14日前まで	2 回以内			2 回以内		
カリフラワー	ヨトウムシ アブラムシ類							7日前まで
ブロッコリー	ヨトウムシ アブラムシ類	21日前まで	2 回以内			2 回以内		
レタス	ヨトウムシ アブラムシ類							14日前まで
	オオタバコガ ナメクジ類	7日前まで	2 回以内			2 回以内		
サラダ菜	ヨトウムシ アブラムシ類			14日前まで	2 回以内		2 回以内	
ほうれんそう	オオタバコガ	7日前まで	2 回以内			2 回以内		
	ヨトウムシ ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類			4 回以内	4 回以内			
ねぎ	シロイチモジヨトウ クロバネキノコバエ類 ネギアザミウマ	4 回以内	4 回以内					
	たまねぎ			4 回以内	4 回以内			
しょうが	ハスモンヨトウ	4 回以内	4 回以内					

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	メソミルを含む 農薬の総使用回数					
ばれいしょ	ジャガイモガ ナストビハムシ ニジュウヤホシテントウ	1000 倍	100 ～ 300 ℓ	7日前まで	5 回以内	散布	5 回以内					
	アブラムシ類	1000 ～ 2000 倍										
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ			14日前まで	4 回以内		4 回以内					
だ い ず	ハスモンヨトウ シロイチモジマダラメイガ マメシンクイガ							7日前まで	3 回以内	3 回以内		
えだめ	カメムシ類 ツメクサガ			5 回以内	5 回以内							
てんさい	ヨトウムシ トビハムシ						前日まで	2 回以内	2 回以内 (は種前の土 壌混和は 1 回以内)			
にんじん	クロバネキノコバエ類	30日前まで		1 回	2 回以内							
セルリー	ヨトウムシ ハスモンヨトウ アブラムシ類									7日前まで	2 回以内	2 回以内
パ セ リ	アブラムシ類											
ご ぼ う										1 ～3 ℓ /m ²	3 日前まで	1 回
アスパラガス	ネギアザミウマ	1 ℓ /m ²		21日前まで	2 回以内		2 回以内					
	ナメクジ類											
に ら	ネギアザミウマ ネダニ類	1 ℓ /m ²	21日前まで	2 回以内	2 回以内							
らっきょう	クロバネキノコバエ類											
	ネダニ類											
食用ゆり	クロバネキノコバエ類	500 倍	—	植付前	1 回	30 分間 種球浸漬	1 回					
茶	ハスモンヨトウ チャトゲコナジラミ	1000 倍	200 ～ 400 ℓ	摘採21日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内					
	コカクモンハマキ チャハマキ	1000 ～ 1500 倍										
	チャノホソガ ミドリヒメヨコバイ											
		チャノキイロアザミウマ ツマグロアオカスミカメ	1000 ～ 2000 倍	25 ～ 180 ℓ				10日前まで				
た ば こ	タバコガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ											